

令和 4 年 2 月 15 日

教 育 長 様

代表者	校 園 名 :	大阪市立海老江西小学校
	校 園 長 名 :	横田 隆文
	電 話 :	06-6451-3300
	事 務 職 員 名 :	建山 涼
申請者	校 園 名 :	大阪市立海老江西小学校
	職 名 ・ 名 前 :	指導養護教諭 森川 真理
	電 話 :	06-6451-3300

研究コース	
グループ研究B	
校 園 コード (代 表 者 校 園 の 市 費 コード)	
531067	
選 定 番 号	209

令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究 (3年目)
2	研究テーマ	養護教諭の専門性を活かした健康教育の研究 子どもたちが生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るために必要な力の育成をめざして—			
3	研究目的	<p>○幼稚園・小学校・中学校・高等学校の幼児・児童・生徒それぞれの発達段階に応じた健康教育を推進する。 ○子どもたちが、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感(自尊感情)」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」を育成する健康教育を推進する。 ○子どもたちが安心して生活を送ることができるための教育活動の基盤となる心身の保持増進を図るための連携及び健康管理のあり方を考える健康教育を推進する。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシツク 9.5ホイント)</p> <p>子どもたちが生涯にわたって健康で安全に生活できる能力を身に付ける為の養護教諭の専門性を活かした健康教育の研究を進めた。 (1)地区別・校種別に分かれて共同研究に取組み、今年度は、12月に研究発表を行った。 取組内容は、次のとおりである。 ①西区小学校共同研究「保健室利用データの可視化による現代的健康課題の解決に向けて一かぞえて発見!まとめて再発見!!」 ②東淀川区小学校共同研究「規則正しい生活習慣作り~明日につなげる保健教育の実践~」 ③第3教育ブロックb(住之江区・住吉区)中学校共同研究「生徒保健委員会の活動の活性化をめざしてピア・サポートを活用した保健教育—」 いずれの研究も、子どもたちの実態から課題を見出し、解決支援を考えていく養護教諭の視点ならではの共同研究となっていた。</p> <p>(2)大阪市養護教員会の研究部を中心に「チーム学校」現代的健康課題における学校園連携モデルの検討と考察の3年間の最終報告を3月に行い、全校園の養護教諭で協議し専門性の向上を図る予定。</p> <p>(3)全国でオンライン形式で開催されている研究会の発表や、研修会に参加し、その研修内容についてまとめ、資料提供を行うなど、養護教諭の専門性の向上を図るための研鑽に努めた。</p> <p>(4)各校園で日々の執務記録より、保健室統計データ(保健月報)を集計・分析し、子どもたちの健康課題や問題点を見出し、心と体の健やかな成長を支援する手立てを行った。その集計・分析結果を大阪市養護教員会の研究誌「あゆみ」にまとめ、今後の研究活動の資料とした。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 3 年 12 月 10 日	参加者数	約 414 名
		場所	クレオ大阪中央		
		備考	申請時とは、違う場所になっています。		
6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p>研究・研修活動において学んだことを、各校園での健康教育実践に活かし、校園の健康教育のレベルの向上を図る。また、養護教諭自身の、子どもたちに対する発達段階に応じた適切な指導を効果的に行うための知識や技量の向上を図る。</p> <p>《検証方法》</p> <p>各種研修会等で得た知識等を、自校での健康教育に実践し、その結果等を各区・ブロックでの部会を中心に協議する。また、その協議内容を定例研修会の場で、全養護教諭に対して発表等を行い、結果を共有し協議する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>各区・ブロックでオンライン等の開催方法も活用しながら、感染防止対策を踏まえて、部会を行った。各校園の実態から、子どもたちに対して実施した指導内容やその結果等を互いに共有し、より良い指導法を協議しながら、養護教諭自身の技量向上に繋げていくことができた。</p> <p>今後も長引くコロナ禍で、様々な事案に対する指導等が必要になってくる。互いに相談して進めていける部会等、養護教諭同士のつながりを大切にして健康教育の実践と専門性の向上を図っていきたい。</p>			
		<p>【見込まれる成果2】</p> <p>生涯にわたり心身ともに健康で、活力ある生活を送るために、健康的な生活習慣を身に付け、健康を管理する能力を形成していくことができる子どもが育つよう取組む。</p> <p>《検証方法》</p> <p>各校園内での児童生徒や保護者に対して行っているアンケート等の調査結果により、子どもたちの健康的な生活習慣に対する意識の変化や行動の変容等を読み取り検証する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>校園で通常行われているアンケートに加え、生活習慣アンケートや昨年度より継続して実施している大阪市養護教員会の「新型コロナウイルス感染症に関する調査」アンケートの結果</p> <p>「心身の不調への対応」「登校や登園しぶりへの対応」など、メンタル面への対応が増加していることがわかった。各校園で昨年度共有した指導資料等を活用し、適切な指導を行い対応した。コロナ禍の影響は計り知れないものがある。私たち養護教諭は、日々の執務において、子供達の意識の変化や行動の変容を注意深く読み取りながら、子どもたち自身が、自らの健康の維持管理を実践していく為の指導法の工夫を、さらに積み重ねていきたい。</p>			
		<p>【見込まれる成果3】</p> <p>大阪市の各校園の教職員に対して、定例研修会の場でがんばる先生支援事業の成果発表として、取り組み内容を報告することにより、保健教育や健康教育について、自校での現状を振り返ってもらう機会とし、全市の健康教育のレベル向上を図る。</p> <p>《検証方法》</p> <p>がんばる先生支援事業の発表時のアンケート調査の結果により、検証する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>がんばる先生支援事業の発表として、感染者数も低下傾向にあり、しっかりとした感染防止対策を実施した上で、12月10日に集合研修の形態で研究発表を行った。発表までの研究期間がコロナ禍で一年延びたが、その分、各区・ブロックの実践事例には、より深い読み取りと分析が行われており、専門性を追究した発表内容になっていた。アンケート結果も、資料、教材等に関するもの、知識の深まりに関するもの、今後の実践意欲に対するもの、すべてにおいて97%を超える肯定的な回答を得ることができた。この結果は、今後も、この共同研究を継続して進めていくことに対して追い風となり、自信へとつながった。</p>			

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p>
		<p>【見込まれる成果5】</p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p>
		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>コロナ禍2年目ということもあり、新しい生活様式のもと、子供達の安心・安全な学びの環境を保障するという視点も加えながら、この一年も健康教育の指導に力を注いだ。次々に起こる現代的健康課題に対し、一人では微力である存在の養護教諭も、「チーム学校」の組織の中で自身の果たすべき役割と行動について、3年間共に考え研究を進めてきたことで、自校園の課題において取組むべきことへの気づきを得ることができた。今後もコーディネーターとしての役割もしっかりと果しながら、それぞれの校園での実践検証へと繋げていきたい。</p> <p>専門性の向上に繋がる研修会は、全市の養護教諭の健康教育のレベルの向上に必須である。研修会の開催方法についても、今年度は、全体発表の集合研修の後に、発表データを、一定期間、Microsoft Teamsにアップロードし、再視聴ができるようにした。この初の試みに対して「自分の実践へとなぎやすくなった」「より研修内容を深く理解することができた」等の肯定的な意見が寄せられた。コロナ禍でも実施可能な新たな研修会スタイルの構築と合わせて、今後も養護教諭の専門性の向上を目指した研究を推進していきたい。</p>
		<p>《代表校園長の総評》</p> <p>今年度だけでなくコロナ禍が続くこの2年間ほど、校園における養護教諭の存在が重要であったことはない。確かな知識に基づく校園全体の健康教育をはじめ、個々の児童・生徒への指導や健康管理に、これまで以上に大きく寄与したと確信している。また、子どもたちが生涯にわたって健康な生活を送るためには、校園における健康教育が大切であり、その中核を担う養護教諭がその専門性を生かして健康教育を進めることが大切であることも再認識できた。</p> <p>本研究は、上記の両方の意味から非常に意義深い研究となったことは間違いない。ここでの成果を今後も大阪市の健康教育のレベルアップに生かしていただきたい。</p>